

2020年7月15日 速報版

# 広島県における文化芸術関係者への 新型コロナウイルスの影響に関する実態調査 報告書

## 【資料：自由記述】

---

調査主体：公益財団法人ひろしま文化振興財団

# はじめに

---

この資料は

「Q10. 新型コロナウイルスの影響により、現在困っていることは何ですか？」

「Q11. 文化芸術活動の支援のうち、どのような支援が必要ですか？」

「Q12. 前の質問での文化芸術活動の支援のうち、現在、最も必要としている支援をお答えください。」の「その他」の回答と、

「Q14. 新型コロナウイルスへの対策をとりながら、すでに実践している取り組みなどがあればお書きください。」、

「Q15. 現状に対するご意見や今後の支援策についてのご提案、今後、予定している活動などがあれば、ご自由にお書きください。」の回答を紹介するものです。

# はじめに | Q10、Q11、Q12（その他：自由記述）

---

- ① Q11とQ12はまとめ、全ての回答をほぼそのまま収録した。ただし③の作業を加えている。
- ② ほぼ同様のものは一つに統合し、誤字脱字を修正した。
- ③ 傾向ごとに分類し、それぞれにおおむね回答順で記した。
- ④ 個人は○、団体・事業者は■を文頭につけた。

項目	頁
Q10. 現在困っていること	7
Q11,Q12. 必要な支援	9

# はじめに | Q14. 実践例

- ① 有効回答は、個人157件、団体・事業者54件。
- ② 全ての回答をほぼそのまま収録した。ただし③の作業を加えている。
- ③ ほぼ同様のものは一つに統合し、個人が特定できるものは要約、複合的なものは分割、誤字脱字を修正した。
- ④ 次のとおり傾向ごとに分類し、それぞれにおおむね回答順で記した。
- ⑤ 個人は○、団体・事業者は■を文頭につけた。

○個人対象	頁
感染症対策	11
新規取組み	13
現状・その他	15

■団体・事業所対象	頁
感染症対策	18
新規取組み	19
現状・その他	20

## はじめに | Q15. 要望、支援、提案、予定

---

- ① 有効回答は、個人125件、団体・事業者47件。
- ② 全ての回答をほぼそのまま収録した。ただし③の作業を加えている。
- ③ ほぼ同様のものは一つに統合し、個人が特定できるものは要約、複合的なものは分割、誤字脱字を修正した。
- ④ 次ページのとおり傾向ごとに分類し、それぞれにおおむね回答順で記した。
- ⑤ 全体としてメッセージがあるものは原文をなるべく生かした。
- ⑥ 複合的かつ分割できないものは、【意見】に関する記述に注目し分類した。
- ⑦ 個人は○、団体・事業者は■を文頭につけた。

# はじめに | Q15：自由記述の傾向

傾 向		頁
要望	補てん、継続、支援、仕組み	21
	ガイドライン	25
	情報、相談、窓口	27
意見	文化施策について	28
不安	活動、金銭面、今後の見通し	35
現状・予定		38

# Q10. 現在困っていること（その他） [1/2]

- 感染症蔓延下での表現方法の模索
- マスメディア等の異常な恐怖を煽る報道。
- 今年度の企画対象作品がいつから作られ企画が可能か、という点
- 納品直前の延期や売上げがないのに経費負担など、「コロナの影響により」のひと言でこちらが負担を被る案件が多いことに対して気持ちがなかなかついていかない。
- 兼業の収入があるため収入半減にならず補助を受けられない
- 直接会うことが最善なのでコロナ対策を如何にするか。開催時期の見極め。
- 生活費が足りないこと
- 練習開始によるバッシングなど
- 新型コロナウイルスへの恐れがあり、活動を再開しても採算の見通しが立たない。
- 客足が遠退くことへの危惧
- 活動ができず会員が精神的にまいっている。
- 行政のライブシーンに対する弾圧
- 演劇の公演を行いたい非常に難しい。文化講演会、短歌大会、文化祭、芸能祭などやる気だが非常に難しい
- 例えば毎月行っている「同人合評会」の集会ができない。
  - キャパシティーの使用制限で採算が取れない。COVID-19への不安で観客が戻ってこない可能性。
  - ボランティアでの団体なので活動しないと協賛やボランティアスタッフが離れる
  - 感染症防止対策と作品保護を両立させる館内環境整備の在り方（温湿度と防虫管理、感染予防のための換気など）
  - 座席制限や消毒などの感染防止対策に時間を要すること。

# Q10. 現在困っていること（その他）

[2/2]

- 作家/作品の取材・調査ができにくいこと（対面での対話や展覧会準備の際に公共交通機関での移動が必須となるため）
- 施設使用料の払戻し等により、損失が発生したこと
- 収入減をカバーする方策がないこと
- 全てボランティアなので



# Q11,Q12. 必要な支援（その他）

[1/2]

- 定期演奏会が中止になったことにより、今までは通信費や事務経費、運営費について、参加費から捻出していたが、参加費を回収することができなくなった。そのために、会場のキャンセル費用や事務経費、通信費、宣伝費を場合によっては幹部が負担することになる可能性がある。結構な額になるため、個人での負担がしんどい。
- 市立の美術館等のギャラリーで、団体や個人が発表できる場所
- 施設使用料の割引(客席の50%までしか集客できないため)
- イベント会場への支援
- 会場の開放（会場が確保できなかった）
- 公演の機会
- 次年度会場手配
- 感染防止の観点から、少人数でも人と人の間隔を空けるために従来より広い会場を利用するため、利用料が増大し運営に影響してくるのが課題。
- 安全な形で公開活動をする方法

- 風評被害に対する法的措置
- 演劇公演などが制作していて中止になった場合、補助金や助成金などにたよっているのでは、その損失というかその経費は中止でも補ってもらえるかどうか、形をかえて表現、発表した場合も、もらえるかどうか
- 早くコロナを鎮静化させること。
- 文化芸術活動がいない物のように言われ、感じられていることが怖いです。芸術の人間存在に対する必要性を公に啓蒙してください。
- メンバーの苛立ちをぶつけられる事での精神的苦痛がたまらない
- アマチュアなので、家庭の事情・仕事上の事情・経済的事情、等々が各々違います。皆色々な事情を抱えているのに自分だけが特に辛いと思っている馬鹿に精神的なサポートが必要だと思います。
- このアンケートは、プロ活動に対するものかと思われませんが、本来、文化芸術活動の普及は、あまた存在するアマチュアの裾野の広い活動が原動力になっているのではないかと考えております。そういう意味では、現状が続けば各種文化芸術活動が衰退してしまう危惧の念さえ抱いてしまいます。アマチュア団体の活動へのご理解とご支援（会場利用料）もご検討いただければ幸いです。

# Q11,Q12. 必要な支援（その他）

[2/2]

○ 選べないくらい何をどうしていけばいいのかわからない。何が必要なのかわからない。

○ 支援の必要なし

■ 施設使用料の払戻し等による損失分の支援

■ イベント開催時の会場代の免除

■ 開催に対する助成制度

■ ギャラリーを利用して下さる方の紹介

■ 特になし

## Q14. 実践例（個人対象） | 感染症対策 [1/7]

- マスクと手指消毒の徹底
- マスクの着用、頻繁な手洗い、「密」を避ける
- マスク着用、手洗い消毒
- マスク着用、手の消毒、入場者制限
- マスク着用、手消毒、換気
- マスク着用で接触を避け、消毒を徹底した稽古
- マスクをしてレッスン
- 消毒
- 日々の消毒
- 手、指の消毒
- 手洗い、消毒、マスク
- 施設備品の消毒、マスクの着用
- 練習前の手指衛生の徹底
- 物に触ったら除菌シートで除菌。
- 消毒などに気をつけてレッスンを開始している。
- 感染防止の為の対策（消毒液やフェイスシールドを揃えるなど）
- 個人毎にフェイスシールドなどを作成して集まれるよう努力中
- 飛沫防止ガード
- ビニールカーテン等衛生対策
- 合唱団では、フェイスシールドを着用の上、間隔を開けて歌っている
- 換気、机を間隔あけ、マスク着用、アルコール除菌をお願いしている
- 換気、手洗いうがい、マスク、フェイスシールド
- 換気、入場制限をしながらの施設運営
- 観客人数制限

## Q14. 実践例（個人対象） | 感染症対策 [2/7]

- 検温、手指の消毒、使ったものの消毒
- 光触媒空気清浄機導入
- 練習用個別ブースの作成
- 広いホールで距離を取ってマスクを着用して合唱の練習を始めた。
- マスク・換気・少人数・ソーシャルディスタンス・手指の消毒・検温等の自分達が出来の限りの対策を取り合唱の練習を再開
- ソーシャルディスタンスが取れる様に、練習会場を2カ所に分けての練習
- ソーシャルディスタンスを保ちつつ演奏している
- 三密を避けた小規模イベント再開。予約制導入。
- 三密を避けて、公民館の広いスペースを借りて練習再開。
- 三密を避ける、マスク着用
- 三密回避で小規模に集会
- 演奏会等は、延期となりましたが、6月初旬より3密に注意をしつつ合唱の練習を再開しました。
- 来場者を絞り講演会や散策会では三密をできる限り避け、衛生管理には特に注意を払っている。
- 練習再開予定であるが、三密にならないよう飛沫飛散マスクを着用し、団員間を2メートル空け、一時間おきに換気する等。
- 「3密を避ける」を常に頭に入れ6月より稽古を再開しています。琴稽古中、マスク着用、机一人一台着席、稽古後、机、椅子、拭き掃除、出席者の体温、マスク着用で来た、電話番号などを記入した物を記録など
- 三密を厳守し、10人程度の句会を月5回実施。6月より
- 春の公演に向けて3密を回避した練習
- 常にマスクを付けて、帰宅したらうがい手洗いは徹底しています。仕事等の私生活において外せない用事以外の外出は極力控えている。
- 吹奏楽器の演奏の際、間隔を開けて演奏
- 分散型の複数会場での練習

# Q14. 実践例（個人対象） | 感染症対策、新規取組み [3/7]

- 少人数での合唱
- 防疫に配慮した上でのライブ活動
- 防疫をした上、教室の再開
- 衛生対策をした上での対面レッスン
- 密室でのレッスンの際はなるべく入室する人数を2～3人までに減らし、入退室のドア開閉を特定の人間にさせる
- 野外ステージ、お客様へのマスクの徹底とアルコール消毒、ソーシャルディスタンス協力の呼びかけ
- スモークマシンを炊いてホールの空調を作動させ空気の流れを確認しました。三密を避けて少人数の練習などからホール一般開放から始めました。休憩中に空調を動かし換気するなど対策しています。
- 予防対策ガイドライン参照
- ガイドラインに従った方法

- オンライン配信
- WEB配信
- インターネットネット配信
- 5Hプロジェクト（※ページ下に注記）
- ネット配信コンサート
- ライブのオンライン配信
- オンライン開催
- オンライン公演
- 家からのライブ配信コンサート、ゲバントホールでライブ配信
- 無観客ライブ発信、屋外少人数観客ライブ
- 自発的にではないが、オンライン動画配信に参加した

※注記：広島県内のライブハウスによる支援Tシャツ販売プロジェクト名

## Q14. 実践例（個人対象） | 新規取組み [4/7]

- オンライン生演奏配信や動画展開など
- リモートセッション
- オンラインレッスン
- リモートレッスン
- 8月より奈良県へ定期的にWSで呼んで頂く予定だったが、リモートで行う予定です。
- グループ練習をやめてリモート演奏
- オンラインでのレッスン・授業
- オンラインレッスンを受けています
- オンラインレッスンを導入した
- オンラインでのレッスンや審査(アドバイス)
- 東京在住の三味線の先生をお招きできないため、オンラインレッスンを受けている
- 落語教室のオンライン授業
- メディアを使いコロナ収束、犠牲者への思いの演奏。少人数限定の短時間ライブ。オンラインレッスン。など
- オンラインでの楽曲制作
- オンラインでの作品発表
- オンラインでの打ち合わせ
- オンラインで可能な演劇企画
- オンラインによるパート練習
- オンラインでの稽古やイベントの実施
- 公演仲間との公演内容についての相談・会議をオンラインで実施した。
- 楽曲の制作、コラボ動画の作成、無観客ライブの実施を検討中。
- オンライン、オフラインのハイブリッドシステム取組み

## Q14. 実践例（個人対象） | 新規取組み、現状・その他 [5/7]

- テレワーク稽古とYouTubeへ動画の投稿の準備。zoomの会議。
- Zoomによるオンライン練習を試行してきたが、その効果には限界がある。
- Zoomによる活動
- Zoom練習
- 動画生配信、オンライン決済を絡めた新しいコンサートシステムを個人的に開発、実施。
- ネット販売ページの立ち上げ
- SNSを使った広報
- 取材はメールと電話で、撮影は無しで画像提供。
- メールやLINEなどを利用した研修
- 授業
- 音楽指導等
- 学校における部活指導は再開した。実技指導で可能な限り接触を避けて
- 学習会や稽古の小規模再開
- 規模を小さくしての練習再開
- 極小規模の演奏会
- 6月より分散型レッスンをしています。
- パート別・少人数で、7月より練習の再開を考えています。
- クラス人数を分散して少人数で講座を行なっている。
- 稽古は時間予約制かつ少人数で行っている
- 室内楽などの少人数の練習から徐々に始めています。
- 時間短縮や人数調整を図りながら、演奏活動の再開を検討している。

## Q14. 実践例（個人対象） | 現状・その他 [6/7]

- とにかく予防と自主練習
- 個人レッスン
- 個人練習。レッスンも先生と続けています。
- 広い場所を借りてのレッスン再開
- グループレッスンができないので個人レッスンにしている
- 合唱の練習
- 合唱団定期演奏会に向けての練習
- 公民館活動
- 公民館での練習の再開
- 公民館での歌会（月例会）
- 現地調査・写真撮影
- アトリエでの機織り体験(完全予約制)
- 作品制作
- 次回の作品の準備
- 一律給付金を用いた作品制作。今後発表及び販売の予定。
- 通信（FAX、葉書等）による作品募集、選定、選評の交換（交歓）
- 7月以降の文化事業再開に向けて準備を進めています。
- 文化団体関係会議
- 文化活動の練習を再開している。
- 市民有志団体で子供向けのイベントを運営しております。今回は開催を見送りました。イベントや文化活動の再開の目途が全国的にたってきたら見送り分のこども達へのイベントを開催する。他のイベント運営者と縮小ではあるが共同開催し、メリットデメリットどちらも共有し、地域内のイベントの融合を試験的に行う計画を立てている。



## Q14. 実践例（個人対象） | 現状・その他 [7/7]

○ 今回のコロナウイルスについては、対外的な事業が大きく影響をうけていますが、当局の適切な対処で、一定の成果があり、他国家に先んじた成果をあげられたと思います。今日のテレビ情報で全国へ送られた諸対策も適切であったと思います。この経験を十分に生かした各分野の対応策を作成、県、市、国民を適切に指導を行える行政に期待しています。私は講座を中止しましたので（公民館）、対外的には外出しない対策で対応してきました。

○ 地域文化の記録づくり。これは集団でなくても個々のできるもので、郷土の歴史とか郷土の伝統ものがたりなど冊子にまとめつつある。その経費を補助助成してもらいたい。

○ マスクを作り、寄付している

○ 在宅勤務

○ まだ活動を再開していない。

○ 毎月の「同人会」及び「出版記念会」等の全面中止。（これが対策）

○ 今は新しい動きをせず、以前の仕事を取り戻すのが先決

○ 生計維持のため、転職せざるをえなかった

○ 専業ではなく他事業も含め、収入方法の多角化。

○ 検討中。

○ STAY HOME以外なし

○ なし

# Q14. 実践例（団体・事業所対象） | 感染症対策 [1/3]

- マスク、消毒ぐらいしか
- 消毒、体温検査、高機能な空気清浄機
- 施設の換気、三密
- 施設内の定期的なアルコール消毒、換気、入室制限
- 入場者の制限、手指の消毒設備の設置、マスクの着用、室内換気等の基本的な感染対策
- 来館者、スタッフの感染防止対策
- アルコール消毒/換気/マスク着用/来画者への注意喚起告知/HP掲載変更
- 消毒アルコール 飛沫感染防止カーテン（ステージと観客席） 1mのディスタンス目印 を設置 機材や、ドアノブ、テーブル等の定期的な消毒（ブリーチ希釈液）の実施
- 主催公演のチケット販売については、販売する枚数をホール定員の半分以下にして、観客間の距離をとるような配置にしている。事務所受付に透明アクリル板を設置し、飛沫感染の予防をしている。館内各所にアルコール消毒液を設置し、来館者に使用をお願いしている。各施設利用後は、備品やドアの取っ手など、接触感染の恐れのある部分の消毒を行っている。来館者にはマスク着用のお願い、また体調不良時の来館自粛をお願いしている。
- 客席の間引き
- 振替公演、一部企画の変更公演、除菌スプレー常設、マスク着用依頼、客席対応
- 定員の50%での発売
- 美術館館内シアターの入場制限、喫茶室の利用制限 入館時の検温
- 現在、展覧会について所蔵品展・特別展のみ開催しています。貸室については使用団体にマスク着用や換気の徹底などをして活動を行ってもらっています。チケット購入窓口やショップのレジには床に間隔を開けて足型を貼って、ソーシャルディスタンスを保っています。土日など、来館者が多い日は館内の様子を確認し混みあっている場所があれば、間隔を広げてもらうようお願いをしています。学校などの団体観覧は会場には1クラスのみ入ってもらうように調整を行っています。

## Q14. 実践例（団体・事業所対象）

## 感染症対策、新規取組み [2/3]

- 三密に注意しながらこれからの事業に対して、各分野別に協議をしていく予定です。
- 事務所業務のテレワーク・参加人数を縮小した会議・書面表決による総会
- 3密を避けてのレッスン、備品の衛生管理
- ほとんどの活動はストップしているが、個人レッスン等の再開は、ドアノブ、テーブル等の消毒、換気、フェイスシールド、マスク等の着用、飲み物を提供しない、などの対策をとっている。
- 一同が一つの場所に集まるのを避けるため、2カ所の施設を借り、分散させて練習に取り組んでいます。
- 遠隔授業・検温報告
- 歌専用のマスクの購入を検討、注文予定。広い場所での練習。検温、マスクの着用、参加者リストの作成。
- 換気、机の間隔を開ける、アルコール除菌
- 教室に置ける簡易洗面台の購入のため、小規模事業持続化補助金を申請している
- 合唱団の練習 練習前に非接触型の体温計で各児の体温を測る・飛沫を飛ばさない独自工夫のトレーニング・ミュージックベル等を使い新しい取り組み・過去の先輩たちの公演dvd を鑑賞して学ぶ・口を開かないハミングでの練習等・280名入場可能な公民館ホールで十分な感覚と距離を取り、窓とドアを開け、冷房の助けも借りて練習しています。
- 例会再開に向けて感染防止策作成と会員に理解を求める文書の準備中。「ホールが密閉空間」等の誤った情報の解消等
- オンラインによる動画配信や無観客公演の体制作り
- オンラインレッスン
- オンラインを活用しての稽古やイベントを企画、実践しています
- リモート、配信などを取り入れたコンサート企画立案
- 無観客公演 動画配信

# Q14. 実践例（団体・事業所対象） | 現状・その他 [3/3]

- 再開館済
- 6月より勉強会を再開しました
- 次回イベントに向けて、準備を始めています。
- ホールやピアノを低価格で利用できる企画やソーシャルディスタンスをとったコンサート、市民参加の企画展、リモート演奏の配信、オンライン上のバックステージツアーなど
- 絵画等の展示、俳句等の募集事業はなるべく実施しようと思っている。舞台事業も採算面で難しいものは、プログラム、チラシは手作りするなど工夫して規模を小さくして実施する方向でいる。
- 活動を自粛していた方々に練習の場として、通常の使用料金より安価で1時間を単位にステージを一般に開放している。（通常は、区分貸し）
- 子ども達の応募無し、観客減 歌わず聞くこと中心に！（ハミング程度）
- 貸館、貸部屋の再開
- 展示会の開催、ミュージアムショップ、カフェの運営
- 展示会の再開
- 展示会の再開、中止・延期に伴う計画変更、講座・ワークショップの再開、オンラインによる教育普及
- 広島県観光連盟のクラウドファンディングに申請、ネットギャラリーでの販売
- 手織り教室の再開
- 3密回避のため、会合や練習を控えている。
- まだ何も目途が立っていない状態です。
- 合唱練習の中断（2020年3月～）
- 耐え続けるのみ
- 未定
- なし

## Q15. 要望 | 補てん、継続、支援、仕組み [1/4]

---

- 内部試演会を計画している。施設利用費などを割り引いてほしい。観客数を減らさなければならないことへの補償があるとよい。
- 人数制限すると、収益が減る。例えば、時給900円が半額以下の400円でも働かないといけない状況なんです!!その減額分の補助とか、施設の会場使用料金を半額以下にするとか、補助していただければ、助かります。
- 文化芸術関係の給付金
- 東京都のような芸術系の方々の給付金等があれば助かります。
- 私たちは利益をえての活動ではないですが(趣味の範囲)、文化芸術活動で生計をたてている人たちに経済的支援が必要だと思っています。
- 治療薬等が国民に浸透し、インフルエンザレベルになるまでの、家賃補助等の資金援助が欲しい。その後は個人の技量。
- 今回の対策が一度切りなのか、今後もこの状況が続いたときに追加支援があるのか
- フリーの音響技術者です。受注していた公演の中止による実損失もありますが、例年受注していた公演の中止決定により受注することなく見込んでいた収入がなくなるケースもあります。さらにはこの業界では特にフリーランスは見積・発注等の契約書が交わされない傾向があります。様々なケースに対応する損失補填を希望します。
- もう一回定額給付金を希望します。今の時期は年度初めの税金を納める時期なので、国から貰ったお金を国へ収めたら全て無くなりました。
- 現場が元に戻るまで給付金を継続してほしい

## Q15. 要望 | 補てん、継続、仕組み、支援 [2/4]

---

- 作品発表に関する支援金、作品発表の場の提供
- 今後は新型コロナウイルスと共生していく訳なので、具体的な防疫や衛生物資などの提供や支援をお願いします。
- フェイスガード等の支援があるとありがたいです。
- 集客をさげざるを得ない場合の会場費の補填や より広い場所での練習などを検討する場合の補助など 金銭的に今まで通りでいかないところへの補助は必要かと思います
- コンサート会場の座席毎の空気清浄機の配備、時間毎のアルコールあるいは次亜塩素酸ナトリウムでの消毒。施設によっては会場の窓があるのにあけられなくなっているので、職員が付き添ってでも休憩時間の窓が開けられるようにすべき
- 一定の距離を保ちながら公演をするとしたら、経費のほうが多くなるので、会場費の減免などお願いしたい。
- 文化行事の開催会場への衛生物資（消毒関係等）の支援（無償提供）
- 使用会場費の負担が大きいため、発表の機会がもてないと聞きます。負担軽減をお願いいたします！
- 練習会場の確保の手続きを簡素化してほしい。会場に出向くのではなくオンラインで24時間受け付けてほしい。
- 広い練習用公共施設の使用が可能にしてほしい
- この場なら発表が許される時と場所の支援

# Q15. 要望 | 補てん、継続、仕組み、支援 [3/4]

- 若年層にも興味を持ってもらえるよう、民謡を発表できる場をご提供頂けると嬉しいです。
- 文化活動に支援をお願いします。
- 9月の2000人クラスの大規模イベントは中止になる予定です。5月以降のイベントは計画自体をしなかった。今後、オンライン化が進む中でのフォローと広告ページなどの補助金などがあればありがたいです。
- 元には戻らないと仮定して、何か新しいことを始めるための機材購入の支援。
- 無観客ライブ配信への支援（設備投資や宣伝費用）を積極的にしてほしい。損害を被っているのに、ライブ配信の設備投資を自腹を切っている。融資ではなく支援金が望ましい。オンライン配信対応コンサートホールとして行政や文化芸術関連の団体から広島県内はもとより他県にも積極的に宣伝してほしい。現在はこの宣伝広告費も自腹を切っておこなっている。現状に対応できるよう努力している企業にもっと目を向けて欲しい。
- 今後の世界は、新型コロナウイルスと共生していく訳なので、行事等での防疫や衛生管理などの提供や指導支援をお願いしたい。
- 主催公演の入場料に関する損失、臨時休館等に伴う施設使用料収入の損失額を自治体の指定管理料だけで賄うことは不可能である。従って、自治体などから何らかの補填措置が必要になっている。
- 中止となった演奏会に出演を依頼していた地域のプロ奏者に対しては、奏者の日程を早い段階で確保していた、また中止の判断が約1ヵ月前という近い時期だったこともあり、出演謝礼の半額を支払った。また、少しでもこれら地域のプロ奏者の生活をサポートするという観点から、動画配信プロジェクトの立ち上げなどを行ったが、これらの経費は全てホール負担となっている。ついては、このような活動に対する助成があると、今後継続的にこの種の事業を実施するうえで、非常に心強い。

## Q15. 要望 | 補てん、継続、仕組み、支援 [4/4]

- 今後、主催事業を展開するうえで、一番大きな制約になっているのは、使用可能な客席数の減少による収入減である。この収入減をチケット代の値上げなどによってお客様へ転嫁することはできないので、事業を展開する際に、いくばくかの助成または補助を頂けないと、いつまで経っても演奏会や公演などの再開にこぎつけることは難しいと考える。
- 営利を目的としていない団体への会場使用料、座席数制限による負担増（上映回数増等）への費用の支援。
- 弊社はアリーナコンサートの舞台製作会社ですが、2月末より自粛に入り、年内は全て自粛中止となっています。年明けからスタートするでしょうが、グリーンアリーナのイベントの日数制限があり、会場の確保が困難で例年通りの開催本数しか出来ない。中止分の延期スケジュールが可能になるよう、このイベント日数制限を変えていただく事を県にお願いします。アリーナコンサートツアーの経済効果（宿泊や交通 飲食その他）は1件につき5億～7億円です。この日数制限の緩和により景気回復ができるように望みます。
- 無観客配信やホールを安く貸し出すなどの、配信とホール利用の支援が必要です
- 県内の公的なホール、展示場などの会場費の減免の強力な働きかけをぜひ。
- 市民サークルのため、営利目的ではありませんので、イベントができなくても、大きな損失はありませんが、毎日楽しく過ごすための心のケア部分がコロナの影響で活動自粛に追い込まれ、心身ともに疲労しています。次回イベント開催できる時にはホールのほうでコロナ対策をご手配いただける等の支援をご検討ください。宜しくお願いします。
- 当団は吹奏楽団として活動しておりますが、1日でも早く、全体合奏が出来るようにするため、管楽器を吹いた際の飛散検証などを行い(既に海外では行われているので)日本でもオーケストラや吹奏楽などの音楽活動が再開出来るように働きかけて頂きたいです。
- 作品の発表の場があると嬉しいです。



## Q15. 要望 | ガイドライン [1/2]

---

- 音響技術者です。人が集まれる催しを始めるにあたってガイドラインをしっかりと示して欲しいです。それが国なのか自治体なのか文化団体なのかですが。皆手探りで一步が踏み出せない状況です。飲食店やライブハウスや映画館の事はよく取り上げられ詳しくガイドラインなども示されていますが、ホールや舞台の事やそれに関わる事業者のことは置いていかれているように思います。しっかりと再開の基準を示していかないとお客が帰ってこないです。我々は出来ると思っていてもお客が帰って来なければ何も出来ません。もっと利用者に向けて発信をお願いします。
- 国と地方自治体の統一された公演やイベントの実施のための具体的な要項。
- 再開へのメドが不明であるため、今後の活動を決めかねています。難しい問題ですが、具体的で現実的な再開へのガイドラインを決めて欲しいです。
- 活動方法についての専門家による意見の取りまとめ。活動支援のための無担保無利子の一時融資。公演に関して広島県として安全基準のガイドライン設定を求めます。
- 観客席が今まで通りに満席でも使用可能できるような対策案をお願いしたい
- オンラインでの練習もタイムラグがあり困難であるため、公民館などの利用方法について具体的に発信していただきたい。
- 公的機関の開演に向かうリード支援
- 合唱再開へのガイドライン
- 吹奏楽の演奏活動に関するガイドラインや情報が少ないので、なにかよりどころがあればうれしいです。

## Q15. 要望 | ガイドライン [2/2]

---

○ ライブハウスの定義を細分化して、それぞれで実態に即したコロナ対策の指示を出して欲しい。（クラシックやジャズ系のライブハウスとロックなどの騒ぐ系のそれとは全く異なるので）

■ ホール運営のガイドラインを決めてほしい

## Q15. 要望 | 情報、相談、窓口

---

- 他のミュージシャンを含め、音楽活動継続のために、どのような取り組みをされているか情報が知りたいです。
- 支援制度の有無や期限、提出方法がわからず、逃しているかもしれないと思っている。が、どこに相談すればいいのか、わからない。
- どのような支援策があるのか、情報を知りたいです。
- 支援をされると言われていますがなかなか申請が難しく、コールセンターもつながらない。
- 制作、展示を行います。支援策が何があって利用できるかはっきりわかりません。
- 状況が見えない中で、刻々と変わる対応方法など、短いスパンで情報が欲しい。
- 新型コロナウイルスに関する打開情報、薬の開発情報について知りたい、つまりいつからコロナ禍から解放されるのか、知りたい。

## Q15. 意見 | 文化施策について [1/7]

---

- 長期にわたる補助の仕組みが必要です。
- 危険とひとくくりせず、具体的な対応策を示してほしい。合唱団でクラスターが発生したと言われ、参加予定の演奏会が全て中止になり練習もままならない状況。具体的な対応策も現状では各個人、各団体が個別に検討している。
- 先行きが不安な現在、資金の貸付では返せる当てがない。無意味。給付金方式で無いと意味がない。
- 文化芸術関係への対応が全体的に遅い中で、アマチュア関係への対応はほとんどされていません。文化芸術はアマチュアや愛好者等の広い裾野があることによって、プロをはじめとするより高度なものができると思います。プロも当初はアマチュアからスタートしたのです。一国の文化芸術等は底辺の発展、発達が肝要で、このことで全体的な発展があると思います。
- イベントの自粛協力に対する助成金をつくってもらわないと、文化が衰退してしまうと思います。アマチュア団体などは、財政的なバックアップが弱いと思いますので、個人で負担する人も多くいると思われます。そういう人の為の負担を少しでも少なくしてほしい。また、給付金手続きなど制度はあっても使いにくいとなると結局何のための制度なのかわからなくなる。芸術分野など、働き方がイレギュラーな人も多いし、自粛要請が出て真っ先に従ってきた芸術を支える裏方の人たちにたいしての助成をキチンと出来るようにしてほしいです。何枚も用紙かいて、持続化給付金の申請しても結局使用できないってことも良く聞きます。今回のアンケートから文化事業の支援について発表されてもそのような制度にならないように願います。
- 発表の場を作れるような行政の取組
- 広島を活動拠点とする邦楽演奏家はこれまでもギリギリのところで活動し、後継者育成をしてきました。今回の新型コロナウイルスへの対応により、広島をはじめ地方の邦楽や伝統芸能はとどめを刺され消えてしまう恐れがあります。さらに和楽器店が廃業し、和楽器職人が失職し後継者がいなくなると、日本の伝統文化は壊滅します。日本文化は日本政府が責任をもって守ってほしいと思います。

## Q15. 意見 | 文化施策について [2/7]

- 「国→県→市町村」の対応の流れが、下方へ行くほど「鈍い」と感じています。様々な「現場を知る人～実態を理解している人～」の人材不足か？文書の横流しに終始しており、実態との乖離が発生していると思われ、伝えきれていない気がしています。活動主体（現場）の判断も迷うことになりはしないか心配です。
- コロナウイルス対策の一環で入場者数を減らすことで、当然収益も下がります。それなのに必要経費が同じであれば、コンサートを開催することが難しいです。施設使用料の割引があればうれしいです。もう一点、コロナウイルスで演奏がキャンセルになりましたが、実のところ収入が激減したという実感はありません。これはもともとの謝金が少ないので、演奏をしてお金をいただいたとしても本番以外にリハーサルをしたり、必要な楽譜を買ったりなどしていると残るのは良くて半分であった…という残念な現実が明らかになったということだと思います。特に公民館など公共の期間から頼まれる仕事の謝金は、正直なところとんでもなく少ないです。図らずも明らかになったこの実情を関係各所に知ってもらって、謝礼金の引き上げを検討していただきたいです。
- 長期的な視点で、広島文化芸術分野における公的な中間支援組織が機能する環境を望みます。具体的には、現状を把握し、支援を必要とする側だけでなく、行政など支援する側に必要な情報を届けることのできる専門的人材が配置された組織です。それにより、相談窓口/情報の集約先としてだけでなく、分野横断したつながりの確保、地域のアンテナとして新たな情報を全国から収集するなど、地域の文化をつくる土壌を維持する役割を期待しています。
- 未曾有の危機に際して、どこの分野も困難をきたしていることと思いますが、こと文化・芸術については、とにかく「三密（特に密接）回避」が難しい分野で、頭を悩ましていることが多々あります。まずは、このような有意義な機会を作ってくださったことに感謝いたします。お互いの状況を共有することで現状把握し、今後どのようなことが出来るか、オンライン活動も含め、是非模索したいと思います。
- 広島が芸術に対して対策を取ろうとしている姿勢を嬉しく思います。ただ、とても遅いです。
- 個人的には、今回は、中止になった公演の中で、キャンセル料が出たものが多かったのもので、非常に助かりました。今後しばらくは以前のような形式でのコンサートは難しいと思いますので、オンラインコンテンツの充実は欠かせないのではないかと感じております。

## Q15. 意見 | 文化施策について [3/7]

---

- 客席数の減少に伴う公演収支の赤字への支援、新上演形態（観客だけでなく演者の感染対策）に対するフォローアップなど、民間の専用劇場のない広島において、公共施設が先導的役割を果たすことにより、広島文化・芸術を維持ではなく発展的に支えていただきたい。
- 契約団体の主催事業中止等に関し、それを考慮した事前準備に関わる奉仕料が必要と思う。
- 致し方ないとは思いますが、行政主催の場合、まず責任を被らないことを優先され、文化芸術の世界を支えるための発想が乏しいように感じられます。
- 現状、オンライン配信がライブスポットにもミュージシャンにも対面ライブに代わるものとして重要度が高い。だが、ある程度機材を持っている、あるいは借りることができるお金のあるスポット・ミュージシャンが先行する形になり、益々その差が大きくなっている。極端にいうと、一部のスポット・ミュージシャンが対面では座席数により限界があったところを、オンラインだと時間も人数も制限がないため、リスナーの時間とお金を総取りしてしまい、寡占化が進む可能性もある。これまで地元のスポットを支えてきていながら、オンラインでは後を追う形になるスポットやミュージシャンが廃業してしまわないように何らかの支援があると良いのではないか。
- 広島県の対応に感謝はしていません。
- 日本国の支援策は素晴らしいです。感謝いたしております。
- 何にしても、早い対応を希望します

## Q15. 意見 | 文化施策について [4/7]

---

- ライブ活動はある種、再開が許されましたが殆どのライブハウス等では、まだコロナ騒動以前のようなイベントやライブ等が行えていない事。また、それを支援するような動きが県や国から正式には行われていない事に疑問を抱きます。あくまでも今ライブハウスを支えているのはメジャーデビューをしたアーティストがお世話になったからと売上金を送って頂いたり各アーティストのファンの方々が存続を繋ぎ止める事をしていただいているだけです。このままでは音楽という文化は終わってしまうと思います。どうかそういった場所を生き甲斐にしている人が沢山居るという事を理解して頂きたいです。
- SNS等では、色々な情報が散乱していて、自分達の都合の良い情報だけを鵜呑みにして強行しようとする姿勢が見られる。各々の部門のトップが公式として、何かしらの規定を素早く提言して頂くと、勝手な思い込みで見切り発車する方も少なくなるかと。
- 文化・芸術活動を、よりよい生活、とりわけさまざまな背景を持った人々の共生へ向けて必要な営為と位置づけ、その活動再開へ向けた取り組みを経済的にも手厚く支援するとともに、文化・芸術活動の様子を広報媒体で積極的に発信することが必要と考える。また、フリーランスのアーティストのうち、他の職種で正規雇用されていない者に関しては、可能なかぎり無条件で、生活支援の対象にすべきである。
- 芸術活動の生命に対する重要性を軽んじられる発言(そのように聞こえる)があまりにも多かつたし、怖がる人々も増え過ぎました。もちろん必要な対策は取らなければなりません、命をながらえても文化が朽ちてしまったら、人間の尊厳は消え去ってしまいます。このままでは危機的です。どうか文化活動の重要性を沢山報道してください。芸術家は貧乏と苦難は慣れています。覚悟もあります。お金のことより文化が敬遠されることが怖くてたまりません。宜しく願います。
- 現状、マスクの着用をお願いされていますが、吹奏楽においてはマスクの着用が出来ずまた会場の収容人数の問題で全体合奏が出来ない状態です。海外では管楽器の演奏について飛散実験など行っておられますが、日本でも行って頂き管楽器を演奏すること自体にリスクは多くないなど調べて頂けるとありがたいです。

## Q15. 意見 | 文化施策について [5/7]

---

- 地域の個人・会社から協賛をいただき開催する、こどもイベントなので、現状ではコロナ過の中地域から協賛金を依頼できない。資金難でいつまでも子供達の楽しめる場を先延ばしにしたくないので、イベント再開の為の資金援助があると助かります。大前提、国内の暮らしが落ち着いてからの事だとは考えていますが、集束したら、経済でもそうですが未来に向けた投資(支援)も必要だと考えます。
- 対策をしても感染リスクはある。活動をしない選択肢もあるが、できれば活動したいというジレンマがある。医療従事者同様、誰が感染しても非難されない社会環境も必要と感じる。
- アーティストだけでなく、技術者などさまざまな人が仕事として文化に携わることが難しい状況が続いています。このまま離職が続くと、事業実施自体が難しくなります。コロナ禍以後、特に若い世代が仕事として関わるができない環境にならないよう、支援を検討頂ける場合はイベント的な支援でなく、実態に沿った長期的な支援をご検討いただきますようお願いします。
- 文化芸術は、豊かな地域をつくるための基礎であり、人の生活にとってなくてはならないものです。どうか灯が消えることがないように、さまざまな議論が行われることを望みます。
- 政治家や思考停止している大衆の無責任かつ無知な意見や対応にはうんざりです。現実をきちんと踏まえ、マイノリティの業界を切り捨てるやり方は即刻やめて頂きたい。
- 劇団の公演を予定している。われわれはアマ劇団であるが、それがコロナでつぶれそうになっている。プロではないが、こうした地域文化を支えてきたものたちの活動が支援もなく消えていきそうである。



## Q15. 意見 | 文化施策について [6/7]

- 広島県のライブハウス営業再開の注意事項として指針が出ているが、観客の1m前後間隔、大声の発声禁止、飲食の禁止（持ち帰り）等、を実施すると、営業自体が儘ならない。オゾン発生器、空気清浄機等の購入を検討しているが、ものづくり給付金の申請も頓挫であり（また、次回申請締め切り8月であるため）購入に至っていない。事業を再開継続の意思はあるが、あくまでもサービス業故、利用者が使いづらい状況であり、今後の事業存続に懐疑的である。支援策提案としては、閉店資金助成金/長期休業助成金（家賃保証最高2年間）があれば、個人事業主も新たな展望が築きやすい。また、各自治体が、野外ライブ会場（全天候型）を建設し、各ライブハウスのエンジニアや、企画者たちが、安価で利用できるような場所があれば良いと考えている。
- 施設の使用条件については、一律に網を被せるのではなく、催し物の形態に合せた施設の使用条件として良いのではないのでしょうか。例えば邦楽演奏会では客は静かに座って聴いているだけで声を出すことはないし、舞台上も動き回ったりせず、座ったまま微動だにせずに演奏するのが基本ですから。息は許されますが身体が揺れただけで注意される世界です。
- 入館者が極端に減少しているので、このまま開館を続けると大きく赤字となるので休館を考えている。開館を続けるには財政支援に頼るしかないところです。公益財団法人の公益事業比率の緩和も考える必要があるのではないのでしょうか。
- 小規模施設の当館は、大きな施設と変わらず感染対策をしているにも関わらず「感染症防止対策事業（補助金）」に申請する条件には当てはまらなく困った。
- 今年開催予定だったひろしまトリエンナーレが中止になったことにより、弊館の今年度のスケジュールが大きく変更になった。芸術祭開催予定だった期間は昨年よりスケジュールを押さえており、それが中止になったことの検証及び補償は県・市からもなくどうしていいのかわからない状況。市の担当課に相談にいったが、実施されないイベントに市の補助金は出せないとのこと。これまでひろしまトリエンナーレ実現に向け県・市と協力してきたつもりだったが、中止が決定して以降何のフォローもなくとても残念に思っている。

## Q15. 意見 | 文化施策について [7/7]

---

■ 各種芸術団体にかかわる裏方スタッフへの世間の認識度の低さに今回の事態で改めて再度認識しました。今で言う3密により練習が難しいとの状況から各種発表会や催事が延期または中止となり、それにかかわる私たち裏方の仕事場が、壊滅的になくなる悪循環は年内復帰また状況次第では来年の見通しも立たない状況です。私たちではどうにもできないこの状況に、もどかしさを痛感しています。これを教訓に私たちの業界も危機管理のさらなる徹底と、世の中にさらに業界の認知にむけて努力の必要性を認識いたしました。また、国や県、市にもさらに認識していただけたらと思います。

■ 公演、活動再開の場所（会館等のハード）が無い、また利用できても無観客等では収入を得ることができない状況。オンライン等では芸術分野においてはプロの場合、配信環境（音質や精度）を整えないとプロとしてのオンライン価値は表現できない状況です。

■ 専門分野が声楽なので、活動再開のめどが立たず、大変困っています。個人レッスンはお互いの了解のもと、気をつけながらの再開が可能です。特にグループで歌うなど、密になりやすい活動の再開のきっかけがつかめません。10人程度のボイストレーニング、30人程度の歌声喫茶、60人ほどの歌唱ゼミナール（みんなで歌う会）等、受講生が多いクラスの再開の条件をどうしたらいいのか迷っています。そのような歌う会では、その都度お願いするピアニストやスタッフの方たちも仕事を失っています。

■ 一刻も早く元の状態で営業できるように国がすべき

■ コロナに限らず平常からの助成を！

## Q15. 不安 | 活動、金銭面、今後の見通し [1/3]

---

- コンサートなどの仕事が今後あるのか心配である。
- 今後いつから芸術活動が再開できるか不安です。
- 活動出来たとしても、以前のような集客は難しい
- 10月からの本番に向け今月から練習を再開するが、コロナ感染の2波、三波が来るかも知れず、とても不安である。
- アマチュア合唱活動をしています、練習再開のめどがたたず、解散の危機すら感じます。
- 演奏会の中止ばかりで、困っている。屋外での開催など、今だからこそその催しが無いものかと、思案している。
- どのタイミングで練習を始めていいのかがわからないでいます。
- 7月、10月にコンサートなどの企画があるのですが、開催が可能か心配しています。
- 神楽公演の実施ができるか不安
- 現段階では、新型コロナウイルスの第2波、第3波への不安が払拭できないことから、年内は展示を見合わせる方向で調整中である。
- 9月に広島も含む国際バンドのツアーを予定しているが、これが出来ないとまた痛手が大きくなるから、年が越せないかも。欧米の仕事もできなくなるかもしれない。

## Q15. 不安 | 活動、金銭面、今後の見通し [2/3]

---

- レッスン再開したが、発表会などはできないので、モチベーションさがり、辞める人できて、先の不安を感じる。新たなことをはじめようと、オンラインレッスンなどを予定。機材等の設備投資と、そのための知識を模索中。
- コンクールや書道展などの審査が行えないことによって子どもたちの戦績が積み上げられないことに不安を感じている。
- いつから観劇・稽古参加などしていいかわからない。個人の価値観の話だけで済ませていいものではない気がする。もし自分が関わるイベント、観劇した舞台などで、後にコロナ感染したら保障が出るなど保険の機能を持たせてもらえれば安心して参加できる。
- 普段は海外に在住しており、一時帰国でコンサートの予定だったため、個人事業主の給付金はもらえません。それがとても困っています。
- 5月に作品展示が延期、中止にならずギリギリ開催された件がありましたが、搬入にも在廊にも行けず、売上もほぼゼロ。それでも経費だけはかかり、中止された方が負担が少なかった。フリーランスの立場上、先方との関係性を考えると強いことも言えないけれど、今後の展示会場や催事主催者との付き合い方を考えるきっかけになった。個人のweb上での作品オンライン販売も考えていくべきなのか悩ましい。
- 中止した公演を延期していますが、ホールの使用規定が公演の採算を割っており、今後の見通しが立ちにくいことが、スケジュールを決定することが躊躇されます。今年度、公演に際し、予算化してくださった市町が数か所あり、また、スケジュールを組んでいた市町が同様にありますが、今年度の開催を見合わせるという連絡が入っており、まだ時間がかかりそうです。
- 政府の支援策は詳細が決まるのが遅く、対象になるのかもわからないのでとても不安です。

# Q15. 不安 | 活動、金銭面、今後の見通し [3/3]

- ホールの使用制限が同一市でも管理者によって違うのでは無いかと思える話を聞いた。感染予防対策の費用負担や、客席使用制限で決まっている予算の収入めどが立たない。会の維持存続に不安がある。
- 自分が保菌してるかどうか知りたい。
- 小規模の発表会を行いたいが、どの程度の大きさでどのような対策を取れば良いかの基準がわからない
- アマチュアのオーケストラ所属なので、損失はありません。いつもほぼ満席に近くなるので、お客様の数を制限するとなるとどのようにすればいいのか、悩んでいます。
- 連絡再開に向けて、他の団体の活動などの情報がなく、公民館と相談の上で試行錯誤で始めた状態なので、これで良いのか不安です。
- イベントができないのは、収入においてもダウンしたままだ。先が不安である
- コンサートを開催したくても感染への恐れや収入面に不安があります。
- 来年度の公演を予定していますが、果たしてコロナは収束しているのかなど思い、ホールや練習室を確保していいのかなど不安しかありません。早く自由に公演ができる日が来てほしいです。
- どこまでシビアに感染対策を取ればよいかわからない。
- 定例の作品展の開催の時期

## Q15. 現況・予定 [1/5]

---

- コロナ禍後に広島で演劇公演を打ったところがないので様子見。自分たちが最初になったらどのような批判が出るのか分からず、恐る恐る周囲を眺めているという状況です。
- 舞台公演の平常化を祈るのみ
- しっかり計画を立てて実践し、実績を残しこれからの伝統芸能を残せる体制を作れるように個人で考えております。
- この機会を前向きに捉えて、広島のアート活動がさらに活性化する仕組みをつくりたいと考えています。
- 発表会を来年に延期。ワークショップを中止。出演を予定していたイベントが中止。芸術文化活動に及ぼすコロナ禍の影響は大きいですが文化芸術の灯を絶やさぬよう頑張ります。
- もう暫く、世の状況を静観し他町の「歌声広場」の様子を窺いながら再開できる日を待ちます。何といたってもボランティア活動なのでリスクは避けたいです。
- 少々不自由、きゅうくつな生活を続けていれば、そのうちみんなが元気を取り戻せるかなと思い頑張ろうと思っています。
- 平成最悪の大雨被害となった西日本豪雨は2018年7月6日、災害から2年が経とうとしています。今年は新型コロナウイルス感染防止のため、3月から3ヶ月余り、施設休館で教室が使用できず全ての行事は中止で外出自粛しています。世界中が新型コロナに感染している。この世の中考えられないことがおきている。
- 支援策についての提案、予定する活動はありません。

## Q15. 現況・予定 [2/5]

---

- ライブのオンライン配信を実施予定です。
- 10月 ミニオペラ公演の予定です。
- 12月に公演予定あり
- さまざまな場所（サロンやギャラリー）で安全を考慮した動画生配信有料コンサートを個人的にやっています。今後コンサートホールなどでもやって行こうと前向きに考えてます。新しい形の活動をご期待ください。
- 毎年、年末に企画しているクリスマスコンサートが今年で10周年となる為、開催出来るように準備は進めさせて頂いてるのですが、是非とも今年も実現したいです。
- オンラインによる芸術活動
- 現状では見通しが立てられない。今のところ予定なし。
- 再度の発表の依頼を待つと共に、中止・延期になった発表の場を作っていきたいと思います。
- 18日にイベントを実施

## Q15. 現況・予定 [3/5]

---

- 11月にイベント企画中ですが、150万円以上の支援が必要です。
- コンサート
- この機会を前向きに捉えて、広島のアート活動がさらに活性化する仕組みをつくりたいと考えています。
- 7月に広島市のライブハウスで1本だけライブをさせていただきます。
- 今年度のすべての行事は中止したが、来年度は感染防止を工夫しながら活動を再開したい。
- 今年はすべて無理だと思いますが、コロナが落ち着いたら、発表会、ライブ、慰問による演奏会などを予定しています。
- 今年中止となったものを来年実施する予定です。
- 通信環境整備したい
- 通信句会やリモート句会
- 結社の大会が延期の状態であるが二次三次コロナ禍の心配があり予定が大変不安定である。
- 医療・福祉関係で、面会が出来ない方に向けた贈り物を作成するプランを立ち上げる予定です。 打ち合わせなどは引き続きオンラインなどで継続して、感染リスクを軽減行こうと思います。



# Q15. 現況・予定 [4/5]

---

- 年内は、少人数での合唱練習となります。
- これまでの経験を活かし、活動中
- 新しい芸術文化の発信方法
- 今年は白紙の状態
- 作家の方達の制作意欲発表意欲等のサポートが出来ればと考えております
- 支援を待ち耐え続けるのみ
- 目途が何も立ってない状態です。
- 全員が大変な時期ですので、自分が出来ることをしっかり行うことで終息に近づけるよう注意を払います。
- コロナウイルスをきっかけに、今までの常識が変化していると感じるため、遠く離れた方にもオンライン上などで展示を楽しんでもらえるような策を考えていきたい。
- 芸術文化の灯を消さないよう、出来ることは少しでもしていきたい。

## Q15. 現況・予定 [5/5]

---

- 2020年7月下旬より、延期していた展覧会を試験的に開幕する予定です。福祉施設に併設されたギャラリーであるため、どこまで感染対策を行うべきかについて不安がなくはない
- コロナの影響で先行きは不透明ではあるが、毎年行っている展覧会の開催を秋に予定している。教室の運営は、コロナの拡大、収束の影響が大変大きい。個人の力ではどうにも出来ない状況。
- 6月1日から教室を再開したが、三密を配慮したため参加人数が以前の3分の1～2分の1に減っていて収入が減少しています。
- 7月末に公民館主催の体験入団・被爆75周年記念事業 平和と希望の今サートⅢへの参加
- 対面レッスン。
- 動画配信、スタッフとのzoomミーティング
- ライブ配信
- 地域を感じていただくものを箱に詰めて届け（ネット販売）、オンラインで旅を感じていただく取り組みを予定しています。
- なし

以上